

障害がある（かもしれない）お子さんとベルギーで暮らすための手引き

～～目次～～

I.	はじめに -----	2
II.	日本語での支援-----	7
III.	現地の選択肢 -----	7
IV.	役立つかもしれないコンタクト -----	14
V.	体験記（障害児を帯同してベルギーに赴任された方々からの寄稿） ---	17

2020-2021 年版 コロナ危機の中で

発起人：元気ママの会有志

賛同・協力者：

RT 君のお母様、HT ちゃんのお母様、IM 君のお母様、KY 君のご両親、

KY ちゃんのお母様、RK 君のご両親、

臨床心理士・川瀬まりさん

他

お断り：情報の正確さには最善を尽くしていますが、作成者は一切の責任を負うことができません。

ご理解ください。

2021 年 4 月 1 日版 by MK

I. はじめに

1 欧州の小国ベルギーへようこそ！

ベルギーは、言語・地政学的にはとても複雑で分かりにくく、何事も非効率的で時間がかかりますが、異なることを大切にす多様で包摂的な社会です。人々は、特に陽気でも社交的でもないけれど、こちらから懐に飛び込めば驚くほど親身になってくれる人が必ずみつかります。現地の人々に交わって前向きに暮らしたいと願います。

お子さんと共に充実した日々を過ごすには、まず教育を中心に考えないわけにはいかないでしょう。障害がある（かもしれない）お子さんの場合にはなおさらです。というのも、お子さんの毎日の生活において、教育機関ですごく時間はとても長く、それは言語・文化や社会のしくみに大きく依存しているからです。

従来は、「障害児教育」といえば、明らかな心身障害を持つ児童を対象にした『特殊教育』のことでしたが、90年代初めころから、学習障害（LD）、注意欠陥・多動性障害（ADHD）、自閉症スペクトラム（ASD）などの広汎な発達障害があつてなんらかの支援教育が必要な子どもは、どこの社会でも全児童の1割以上いることがわかり始めました。ここベルギーは欧州の中でも人権意識が高く、多様性を重んじる社会であること、欧州連合や国際機関が多く国際学校も多いことから、選択肢は多いと言えます。

ベルギーでは、こうした障害や学習困難を、個人の問題として片付けず、さまざまな分野のプロが関わって、社会として対応すべきだという考えがあります。家族だけで対処するには、負担が重く、潰れてしまいがちだからです。ただ、こうした手助けを十分に享受し活用するには、ベルギー社会の仕組みを十分に理解し、少なくとも英語でなんとか意思疎通ができることは必要条件といえるでしょう。

この20年余り、こうしたご家族の学校探しをお手伝いしてきた経緯から、始めの一步としての手引きを用意することにしました。皆さんの、実質的なお役に立てれば幸いです。

2 渡白前にまず考えてほしいこと

まず、知っていただきたいことが3つあります。

① 言語の壁

お子さんの教育を考える場合、日本語が礎となることが多いので、まずは日本語による教育機関をお考えになるかと思えます。近年、日本国内では「特別支援学級」のある公立校は当たり前ですが、ブリュッセルにある日本人幼稚園・日本人学校は、設備や専門性の観点から、誰でも入学できるとは限らないようです。日本語による教育をとお考えなら、なるべく早い時点から連絡をとり入学可否を確認するとよいでしょう。

ベルギーでは、教育や福祉は言語共同体が管轄しており、日本人は、**蘭語**か**仏語**の共同体が運営する教育・療育機関を検討することになるでしょう。ブリュッセル地域や蘭語圏フランダース地方では英語の通用度は高いとはいえ、教育そのものはあくまで蘭語

か仏語です。お子さんの発達や学習の言語が決まるわけですので、慎重に考えてください。親御さんにも、最低限の蘭語力・仏語力を習得する覚悟は必要です。

蘭語や仏語は無理でも、英語ならという方には、国際学校という選択肢もあります。俗にインターと呼ばれるこうした学校の中には、どこの国の教育行政の枠組みにも沿っていないところもありますが、ブリティッシュスクール、リセ・フランセ、ヨーロピアン・スクールなど、それぞれの管轄教育行政のカリキュラムに沿った学校もあり、また、モンテッソーリなどの特殊な教育法を採用する学校もあります。国際学校は、英語が通用する場合が大半ですが、教育言語はそれぞれです。ベルギーの学校としては認可されていないので補助金は受けられず、入学資格によってはかなりの学費がかかりますが、個人指導に力点が置かれていたり、支援教育の制度がしっかりしているところもあります。

② 時間的余裕

日本語の教育機関に打診するのは比較的スムーズに進むと思われれます。ただ、到着して面談をした後で他の選択肢を探すのではとても時間的に厳しいのです。

ベルギーの普通初等教育（幼稚園・小学校）は、学区制はないので、どこに住んでいてもどこの学校へも入学することができます。ただ、特別な教育法を採用していたり、定評があるような学校の場合は、長いウェイティングリストがあることも珍しくありません。軽度知的障害や学習障害では、普通教育でも入学可と判断される場合もあります。いずれにせよ、9月の新年度からの入学の場合は、遅くとも6月までに学校への入学希望を出しておく必要があります。

国際学校の場合には、定員が決まっているので、さらに早めに問い合わせるウェイティングリストに乗せてもらう必要があります。

ベルギーの養護学校は、ベルギーの医師団による診断書に基づいて入学が審査されるのが普通です。日本の診断書（たとえ翻訳されていても）は考慮してはもらえても、ベルギーの福祉の仕組みに入るには、行政が認可した医師による正式な診断が必要だからです。脳性マヒやダウン症など、はっきりとした診断が出やすい場合は比較的迅速ですが、発達障害など、総合診断に何か月も要するような場合には、確定診断が出るまで入学審査の書類さえ作れずに待機となる場合もあります。初診のアポイントが何か月も先になることすらあります。

早め早めに計画的に行動することをお勧めします。職場や住居の近くに受け入れてくれる学校があるとは限りません。赴任の可能性があるとわかった時点から、早速調べたり、問い合わせたりしてください。

③ 経済的負担

ベルギーでは、憲法で教育は無償とされているため、原則として、幼稚園から大学に至るまで「授業料」はかかりません。ただ、特殊な教育法を採用している学校には様々

な形での補助的な費用がかかる場合があります。また、福祉の枠組みに入る養護学校では、納税歴が5年に満たない外国人には相当額の実費が請求される場合もあります。

特殊教育法を採用する現地校の補助費は年間1000～2000ユーロ程度ですが、養護学校の実費では1～2万ユーロかかる可能性もあり、国際学校では、1万5000ユーロ～4万ユーロ程度かかると覚悟する必要があります。派遣する企業・組織に、かかる費用（の一部）をどの程度まで負担してもらえるか確認するとよいでしょう。

また、ベルギーでは、専門のセラピストが市中にたくさんいて、素晴らしい施療が受けられます。たとえば、言語療法士（ロゴセラピー）、作業療法士（エルゴセラピー）、理学療法士（キネ）、臨床心理士などです。日本ではなかなか受けられない乗馬によるヒポセラピーなどもあります。

ベルギーの医師団による診察にも、それなりの費用がかかります。通訳さんを頼まなければならないというような場合には、その費用もかかります。お子さんとご家族全員の最善のためには、赴任にかかる予算的な検討を行ってください。また、ベルギーの皆保険（ミュチュエル）があれば、セラピーの多くがカバーされるので、当地の保険に加入できないかを、事前に派遣する企業・組織と交渉しておくのも得策といえるでしょう。

3 はじめの第一歩

障害がある（かもしれない）お子さんを連れて赴任する場合や、お子さんに何かあるのではないかと疑いがもたれる場合には、まず、家庭医を決めて相談してください。ベルギーでは、病気の有無にかかわらず、家族の健康を見守ってくれる家庭医を定めることが推奨されています。まず、家庭医を通して専門の医師やパラメディカル（言語療法士、運動療法士、作業療法士、心理療法士など）に相談し、総合的・専門的な診断を受けられるようにするというのが正攻法です。多少でも障害がある（かもしれない）場合には、子どもさんの教育・療育のことを最優先で考え行動し始めてください。

4 将来的に日本に帰る、または、他国に赴任する可能性がある場合

ベルギーの教育・療育は、よく配慮してくれていたとしても、あくまで、基軸言語は蘭語または仏語です。特に、知的障害がある（かもしれない）子どもにとって、言語の負荷を高めないためには、やはり言語環境を複雑にしすぎないことが最善のように思われます。

もし、日本人幼稚園・日本人学校以外の選択肢を考えることになった場合、初等教育では特に、親が子どもの学びを共に分かち合い、読んだり、歌ったり、互いに語ったりすることや、支援できることがとても重要だとされています。ベルギーの後、他国への異動の可能性がありそうであれば、教育言語をころころ変えないという意味での長期的な視野も重要だと言えます。

5 ベルギー現地校の基本的な仕組み

ベルギーでは、前述のように教育は無償であり、2歳半から初等教育が始まりますが、義務教育は小学校1年から高校修了（普通18歳）までです。小学校は1年～6年まで、中高は一貫教育で通常セカンダリー教育またはヒューマニティ教育と呼ばれています。幼稚園から小学校に上がれるかどうかの総合審査があり、また、小学校から中学校に上がれるかの全国一斉習熟テストがあり、その結果、不適切と判断されれば、幼稚園でも小学校でも留年は頻繁にありうることで、また、社会的にも、その方が子どもにとってよりよいと考えられています。

ここでは初等教育に絞って少し説明します。初等教育では、1クラスは22人程度で、多くの場合1学年1学級。大きくても、1学年2学級程度に留まります。したがって、初等教育全体でも9クラス（児童数200人程度）といった規模の小さな学校が、歩いて行ける距離にいくつもあつたりします。子どもが一人で歩いて通学したり、自転車に乗ったりして通学することは、多くの場合は12歳まではできないので、親や学校に届け出ている保護者の代理人が必ず学校まで送り迎えすることになります。学童保育は早朝と夕方はほとんどの学校で用意されています。

学校は、コミュニオン（区や市に相当する自治体）が運営する学校や、私立と呼ばれる宗教が関与する学校（多くはカトリック系）が一般的です。私立と呼ばれる学校でも、ベルギーに正式に学校として認可されていれば、補助金が交付され、授業料は無料で、入学試験や考査がなく、誰でも入学することができます。このほかに、アテネと呼ばれる王立学校や言語共同体直轄の特別な教育法を使用している学校も少数あります。

障害児の教育・療育には、大きく分けて、「統合方針」（米英など）を採る国と「分離方針」（ベルギー、フランスなど）を採る国があります。統合方針を採用する国では、普通学校に「支援学級」を併設しますが、さまざまな困難や障害のタイプが同じ支援学級に一緒に入れられ、それぞれに適した指導法が採用できないジレンマもあるようです。現在の理想形は、さらに包摂方針（インクルージョン）として、同じクラスの中に、定型発達の児童も、障害がある（かもしれない）お子さんも共存して助け合いながら学ぶこととされていますが、現実にはどこの社会でも、この方針でどの子にも最適な教育・療育を提供するのは難しく、試行錯誤しているようです。

ベルギーは今のところ大ざっぱに言えば、「明確な障害児」に対しては分離方針、「発達障害・学習障害」の場合には、先生たちや学校保健システム（PMS）などで査定し、学校外で、健康保険でカバーされる様々な専門家のセラピーを受けながら、普通学校に通学という状況にあるといえるでしょう。幼稚園の間は、軽度障害があっても普通校で受け入れてくれる可能性も高く、その間にベルギーの医師団による診断を受ければ、小学校から専門の養護学校に入学することもできます。

重度の障害を持つお子さんであれば、現地の養護学校は一般的によく整備されており、これまでに現地養護学校にお子さんを通わせることのできた日本人の親御さんの多くはとても満足していらしたと思います。担任教師以外に多数の専門家が少数の生徒一人一人にかかわり（小学校では1クラス6～8人程度）、平日の学校内での教育・療育支

援はもちろんのこと、現地の医療機関やサポート機関との情報連携・協力体制、給食、送迎スクールバス、休み中の運営など、行き届いたきめ細かな教育・療育を提供しています。慣れない土地で、必要なセラピーや通学のための交通手段などを学校で面倒を見てくれることは大きなメリットです。自閉症児専門学級などはとても貴重なので、よいチャンスになるでしょう。

しかし、ベルギーの養護学校の定員は不足しており、入学のためには、時間的に十二分な余裕をもって用意周到に準備する必要があります。空きがないと言われても見学を希望して、ウェイティング・リストに名前を載せてもらい、幾度も電話をかけ、足を運び、粘り強く入学希望を伝える努力が必要です。外国人であることによる入学順位の差別はありませんが、ベルギー人なら、何年も前から名前を連ねている場合が多いのです。

また、ベルギーには、障害のある子どもを持った親が、自ら理想に燃えて学校や施設を作り、それを行政が公認して支援しているというような小規模な教育・療育機関が多々あるのも特徴です。こうしたところは、創立者の理想や理念が強く反映され、行き届いた配慮や優しさが一杯です。インクルージョン方式のクレッシュ（託児所）、身体障害児・健常児の包摂教育、自閉症児・者の教育療育総合施設、軽度知的障害児専門の中学校、高校、重度重複障害児の一時預かりセンターなど、「脱帽、すばらしい！」の一言ですが、数年の赴任期間では順番が回ってきにくいのが実情です。

6 軽度の発達障害や学習障害がある（かもしれない）お子さんの場合

言語を考えると、第一選択は日本人幼稚園や日本人学校とされる場合が多いでしょう。次に、経済的に可能であれば、1) 大規模なインター校、あるいは逆に、2) 特殊教育法を採用する小規模な学校を検討してみingことをお勧めします。大規模なインター校では、英米系の『統合教育方針』を採用し、様々な専門家のほか、専門指導のできる補助教員が多く配置されています。

一方、モンテッソーリ (Montessori)、シュタイナー (Steiner)、フレネ (Freinet)、デクロリー (Decroly) などの特殊な教育法を採用している小規模校は、多少の障害は子どもの個性としてポジティブに許容・尊重し、個人指導に重きを置く教育指導方針を採っています。モンテッソーリ法は日本でも、また世界的にも最も知られていますが、ベルギーでは、私立の国際学校という設定の中で行われている場合が多く、従って授業料は安くはありません。シュタイナー (Steiner)、フレネ (Freinet)、デクロリー (Decroly) などの教授法は、ベルギーのごく一部の普通学校でも採用されていて、多少の補助費用がかかりますが、国際学校ほどではありません、ウェイティングはかなり長い可能性があります。

II. 日本語での支援

日本人幼稚園、日本人学校以外の、日本語での補助的な学習・活動の可能性としては、以下のようなところがあります。

■ 公文教室

➤ 公文式ブリュッセル教室

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100008681503222>

場所：オーデルゲム (Auderghem/Oudergem)

➤ 公文ユックル教室

http://www.petits-pois.be/PDF/Site/Kumon/PP_site_2020_07_29.pdf

場所：ユックル (Uccle/Ukkel)

■ 寺子屋ひなげし <https://www.facebook.com/terakoya.hinageshi/>

海外で育つ子どもたちが日本語で元気に活動するグループ。

場所：Overijse (Jezus Eik)

TEL: +32 (0) 498 54 68 27

■ 外遊びの会 <http://sotoasobinokai.blogspot.com/>

外遊びを重視する日本語での子育てサークル

Mail: sotoasobinokai@hotmail.com

■ 子育て広場「たんぽぽ」 <http://tanpopohiroba.blogspot.com/>

プレママから2歳児まで位の日本語子育てサークル

III. 現地の選択肢

多様性を大切にし、人種、国籍を始め、個性豊かな子どもたちを包摂的に受け入れようとしている学校を記載します。順不同

1. 国際学校

ブリュッセル周辺には、欧州連合やその他の国際機関が多数あることも手伝って、多くの国際学校があります。授業料はかなりですが、個人教育を重視した手厚い教員配置や、学内に特殊学級や専門セラピストなどを内包しているところもあります。

■ International School of Brussels (ISB) <https://www.isb.be/>

幼稚園から高校まで。素晴らしい環境の中に、多くの特殊教育専門指導者を配して、包摂的な取り組みが充実。

場所：ウォーターマール＝ボアフォール (Watermael-Boitsfort)

MAIL: (入学関連) admissions@isb.be TEL: +32 (0) 2 661 4211

2021年4月1日版 by MK

p. 7

■ BEPS International www.beps.com

英国カリキュラムに従う小規模な学校。初等教育（幼稚園・小学校）とセカンダリーがあり、場所は別々。

場所（初等教育）：イクセル（Ixelles/Elsene）

MAIL（入学関連）：admissions@beps.com TEL: +32 (0) 2 648 43 11

■ Roots and Wings School <https://www.rootsandwingsschool.be/>

アルターナティブ教育を提唱する極めて小さな国際学校、セカンダリーまであり日本人受け入れ実績については不明。支援教育を必要とする人々のための図書館 LuAPE <http://luape.org/> と提携

場所：ウォリュウエー（Woluwe）

MAIL（入学関連）：rootsandwingspreschool@yahoo.com TEL: +32 498 511456

2. モンテッソーリ教授法を用いる国際学校

マリア・モンテッソーリの個人を重視する教授法はベルギーでも様々なスクールで取り入れられています。原則バイリンガル（仏英）で、授業料は安いとはいえません。

■ International Montessori Schools <https://www.international-montessori.org/>

0歳の母子グループから高校までのかなり大規模な学校です。（セカンダリーは場所が異なります）

場所（初等教育）：テルビューレン（Tervuren）

MAIL: montessori-tervuren@online.be TEL: +32 2 767 63 60

■ Montessori House Brussels <https://www.montessoribrussels.org/>

純粋なモンテッソーリ法を実施するとても小さな幼稚園で、2歳半～6歳までです。

場所：ウォリュウエー（Woluwe）

MAIL（入学関連）：info@montessoribrussels.org TEL: +32 (0) 2 733 63 55

■ European School of Bruxelles-Argenteuil <http://www.europeanschool.be/>

幼稚園に相当する部分に、定員18名のモンテッソーリクラスがあります。

場所（初等教育）：ワートルロー（Waterloo）

MAIL（入学関連）：admission@eeba.be TEL: +32 (0) 2 357 06 70

■ La Maison des Enfants Montessori Children' s House

日本人受け入れ実績については不明。

<https://www.maison-des-enfants-montessori.be/default.htm>

場所：ユックル（Uccle/Ukkel）

MAIL: catherine.vigreux@gmail.com TEL: +32 (0) 2 375 61 84

3. ベルギーの普通学校の中で、個人指導を重視する教育法（シュタイナー、フレネ、デクロリなど）を採用する学校（順不同）

ベルギーの初等教育はとても小規模なところが多く、中には普通の学校と多少異なる教育法を取り入れていることで、直接、仏語共同体や蘭語共同体に管轄されていたり、親御さんが理想や理念をもって手作りで創り、行政や共同体から認可をうけたところなどもあります。

仏語共同体直轄の FELSI 学校群（よりインクルーシブな教授法採用など）

（国際学校ほどではないですが、協力費的な名目で費用がかかります）

■ L' Autre Ecole <http://www.autre-ecole.org/>

フレネ（Freinet）教授法を用いた幼稚園・小学校（仏語）

場所： オーデルゲム（Auderghem/Oudergem）日本人受け入れ実績あり

MAIL： autre.ecole.3031@ens.irisnet.be TEL： +32 (0) 2 660 7238

■ Ecole Nos Enfants <http://www.ecolenosenfants.be/>

デュウエイ（Dewey）およびフレネ（Freinet）教授法に基づく Active Education を主軸とする幼稚園・小学校相当の教育機関。2～4 歳児、5～8 歳児、9～12 歳児までの 3 段階で教育。日本人受け入れ実績あり

場所： フォレ（Forest/Voost）

MAIL： secretariatnosenfants@gmail.com TEL： +32 (0) 2 344 08 84

■ L' Ecole des Bruyères <https://www.bruyeres.be/>

大学や研究所などが集積する Louvain-La-Neuve にあるフレネ（Freinet）教授法に基づく幼稚園と小学校。ブリュッセルから 30 km ほど南東の仏語圏にあり。

MAIL： direction@bruyeres.be TEL： +32 (0) 010/451 666

■ Ecole Decroly <http://www.ecoledecroly.be/>

ベルギー人のデュクロリ博士によって開発された教授法に基づく 1907 年設立の学校。本校は、幼稚園から高校まであるが、デュクロリ教授法を用いた学校はブリュッセル周辺にいくつかある。同教授法の Institut Decroly は養護学校としての自閉症児クラスが、幼稚園と小学校レベルに設けられている。（<http://www.decroly.be/index.php>）

場所： ユックル（Uccle/Ukkel）日本人受け入れ実績あり

MAIL： ecolefondamentale@ecoledecroly.be TEL： +32 (0) 2 375 26 96

■ L' Ecole Plein Air <http://www.ecolepleinair.be/>

デュクロリ教授法に基づく幼稚園と小学校。日本人実績不明。

場所： ユックル（Uccle/Ukkel）

MAIL： ecolepleinair@gmail.com TEL： +32 (0) 2 374 57 25

■ **Ecole Amélie Hamaide** <http://www.ecolehamaide.be/>

デウクロリ教授法を学んだ創設者 Hamaide 氏が創設した小さな幼稚園・小学校

日本人実績不明

場所： ユックル (Uccle/Ukkel)

MAIL: hamaide@freegates.be TEL: +32 (0) 2 374 7890

■ **Ecole en Couleurs** <https://www.ecoleencouleurs.be/>

デウクロリ教授法に基づく幼稚園と小学校。日本人実績不明。

場所： フォレ (Forest/Voost)

MAIL: 不明 TEL: +32 (0) 2 343 8644

■ **Ecole Ouverte** <https://www.ecoleouverte.be/>

デウクロリ教授法に基づく幼稚園と小学校。

場所： ランヌ (Lasne)、ワートルロー隣接

MAIL: ecole.ouverte@prim.cfwb.be TEL: +32 (0) 2 653 3432

■ **Ecole Singelijn** <http://www.ecolesingelijn.be/presentation-2/presentation/>

独自のアクティブ教育で定評のある学校。学校訪問などの予定がかなり整備されているので、ホームページを要チェック。ウェイティングリストも長い可能性あり。

場所： ウォリュウエー (Woluwe)

MAIL: info@ecolesingelijn.be TEL: (入学希望) +32 (0) 2 529 5810

■ **Ecole Steiner Bruxelles** <https://sites.google.com/view/ecole-eos>

シュタイナー法に基づく新設校 (2019 年から) 日本人実績不明

場所： エッテルベーク (Etterbeek)

MAIL: Info@ecole-eos.be TEL: +32 (0) 478 053008

コミュニオンやカトリック系普通学校の中で、個人を重視し、アクティブ教育を取り入れている学校

■ **BOIS School** (Bessonova Outdoor Immersion School)

<https://www.boschool.org/>

様々な言語を大切にし、屋外教育重視 場所： ウォリュウエー (Woluwe)

幼稚園クラスのみ info@boischool.be 日本人実績不明

■ **Ecole Communale Clair-Vivre Alpha et Omega** 日本人実績不明

<http://www.clairvivre.be/sommaire.html> 場所： エヴェール (Evere)

コミュニオンの学校。フレネ教授法を採用

■ **Ecole Sainte-Jeanne de Chantal** <https://www.esjdc.be/>

場所：ウォリュウエー (Woluwe) 日本人実績不明

カトリック学校。ペーターセン (ドイツの Petersen Plan IENA) 教育を採用

■ **Ecole Saint-Joseph** <https://stjosephucclle.jimdo.com/>

場所：ユックル (Uccle/Ukkel) 日本人実績不明

カトリック学校。デクロリー教授法を採用

■ **Ecole Vive la Vie** <http://www.vivelavieasbl.be/>

場所：ボアフォール (Boisfort) アクティブ教育を重視するユニークな教育

日本人実績不明

■ **Les Petits Moineaux (幼稚園のみ)**

<https://ecolesanssouci.ixelles.be/>

コミューン NO. 2~14 の Ecole Sans Souci グループのうちの一つ。日本人実績不明

場所：イクセル (Ixelles/Elsene) インクルージョン重視の教育 (自閉症児を含む)

MAIL: ec.sanssouci@ixelles.brussels TEL: +32 (0) 2 515 65 31

■ **Le Petit RG (Annexée à l'Athénée Royal Rive Gauche) - Primaire**

<https://guide-ecoles.be/fiche/ecole-le-petit-rg-primaire-laeken/>

コミューンの幼稚園・小学校。インクルージョン重視の教育に積極的。日本人実績不明

場所：ラーケン (Laeken)

MAIL: 不明 TEL: +32 (0) 2 422 0497

4. ベルギーの公的養護教育

ベルギーの養護学校は以下のタイプわけに従って整備されており、入学のためには、ベルギーの学校保健機関や指定医師団による診断書が必要です。「自閉症」は、知的影響の度合いによって、Type 2 か 3 で、特に自閉症学級を設けている学校が理想的です。蘭語共同体では、新たに Type 9: 知的影響の少ない自閉症児 というカテゴリーを設けています。

Type 1: 軽度の知的障害 (IQ55-70)

Type 2: 中重度の知的障害 (IQ55 以下) → 知的に著しい影響を受けている自閉症児

Type 3: 多動児 (性格障害) → 多動などの激しい自閉症児

Type 4: 身体障害

Type 5: 病弱 (疾病障害) 通常病院内

Type 6: 視覚障害

Type 7: 聴覚障害

Type 8: 学習障害 (特異性発達障害)

仏語共同体が管轄する全ての養護学校は、以下のサイトから検索できます。

<http://www.enseignement.be/index.php?page=26037>

蘭語共同体が管轄する支援教育と学校リストは以下から。

<https://data-onderwijs.vlaanderen.be/onderwijsaanbod/lijst.aspx?hs=buo>

これまで日本人児童を受け入れてくれた実績があり、駐在日本人にとって通いやすい場所にある知的障害・自閉症児のための学校（順不同）

- **Schaller**, Etablissement d'enseignement spécialisé fondamental de la Communauté française <http://ecoleschallerfondamental.weebly.com/>

Type : 2, 4 自閉症児クラスあり、TEACCH 法使用、別途セカンダリーあり

場所：オーデルゲム(Auderghem/Oudergem) 日本人子弟受け入れあり

MAIL : fondamental@ecole-s.be TEL: +32 (0)2 672 33 81, +32(0)478 876827

- **Ecole Anne Misonne** <https://www.annemisonne.be/fr>

非認可私立校、自閉を含む様々な支援を要する子どもに対応、小学校のみ

セカンダリーは別途 Ecole des 4 Vents あり <https://ecoledes4vents.be/>

場所：オーデルゲム(Auderghem/Oudergem) 日本人幼稚園至近、日本人受け入れあり

MAIL: ecole.anne.misonne@gmail.com TEL: +32 (0)2 733 14 87

- **Institut Decroly** <http://www.decroly.be/index.php>

Type 3（多動を含む自閉症クラスの幼稚園・小学校レベルあり）

場所：ユックル (Uccle/Ukkel) 2016 年頃から開設。日本人受け入れ実績不明

TEL : Directrice Mme Plas +32 (0) 333.07.95

- **Ecole Nos Pilifs** <https://www.centrenospilifs.be/ecole.html>

Type 3（自閉症のみ、TEACCH、ABA、PECS 使用、補助費負担あり）

思春期、大人のファームなども総合グループ <http://www.villapilifs.be/les-asbl-nos-pilifs/>

場所：ラーケン (Laeken) 日本人子弟受け入れあり

MAIL : 不明 TEL: +32 (0)2 268 0271

- **Les Acacias**, Ecole Communale N°1 Primaire Spécialisé

Type 1, 2, 3、幼少のみ、自閉症児専門クラスあり、場所的には日本人には行きにくい

場所：アンデルレヒト (Anderlecht) 日本人子弟受け入れあり

MAIL : 不明 TEL: +32 (0)2 527 17 32

- **La Clairière**, Ecole fondamentale d'enseignement specialise libre

<http://www.laclairiere.be/fondamental/>

Type 2, セカンダリーあり、自閉症クラスあり、TEACCH 法、補助費負担あり

場所：ウォーターマール＝ボアフォール (Watermael-Boisfort) 日本人子弟受け入れあり

MAIL : 不明 TEL : +32 (0)2 661 7811

■ **Chanterelle**, Ecole Primaire Speciale Libre

<https://www.lesmarolles.be/liste-des-associations-et-services/chanterelle>

Type 2, 幼小のみ、自閉症クラスあり、TEACCH 法 日本人子弟受け入れあり

場所：ブリュッセル・センター (Bruxelles Centre)

MAIL: chanterelle.3241@ens.irisnet.be TEL: +32 2 511 60 69

■ **Les AS*TRÔN*AUTES** <https://astronautes.be/>

Type 2, 自閉症に特化 (幼稚園はインクルージョン) Schaller の元校長らによる新設校

場所：イクセル (Ixelles/Elsene) 日本人子弟受け入れ実績不明

MAIL: ecole.lesastronautes@gmail.com TEL: +32 (0)2 511 15 10, +32 (0)477 506 828

日本人受け入れ実績は不明だが、自閉症学級のある、良さそうな学校 (順不同)

■ **Nicole Smelten**, Ecole Fondamentale Enseignement Libre

<https://www.lacitejoyeuse.be/l-ecole-nicolas-smelten/>

Type 3, 4, 8 場所：モーレンベーク (Molenbeek-Saint-Jean)

場所的には日本人駐在員家庭には行きにくい

MAIL: nicolassmelten@hotmail.com TEL: +32 (0) 2 482 0670

■ **Etoile du Berger**, Ecole D'Enseignement Primaire Spécialisé libre

<http://ecole-etoile-du-berger.weebly.com/>

自閉症クラスあり、TEACCH 使用、小学校のみ

Type 1, 8 場所：イクセル (Ixelle/Elsene)

MAIL: m.moreno.edb@ens.irisnet.be TEL: +32 (0)2 512 63 29

■ **Jules Anspach**, Centre Pédagogique Primaire Spécial Communal

http://www.enseignement.be/index.php?page=24797&etab_id=177

Type 1, 3, 5, 8 場所：ブリュッセル・センター

その他の障害 (身体障害など) 対象で日本人を受け入れた実績のある学校 (順不同)

■ **C.E.T.D.**, Centre D'Enseignement et de Traitements Différenciés

http://www.enseignement.be/index.php?page=24797&navi=0&etab_id=526

Type 4, 幼稚園のみインクルージョン、日本人受け入れ実績あり

場所：ウォリュウエー (Woluwe-Sint-Lambert) TEL: +32(0) 2 761 06 28

■ **C.R.E.B.**, Centre de Rééducation de l'Enfance à Bruxelles info@creb-asbl.be

重度心身障害児のリハビリセンター 日本人受け入れ実績あり

場所：ウォリュウエー (Woluwe-Sint-Lambert)

MAIL : info@creb-asbl.be TEL : +32 (0) 2 776 8470

■ **L'Ecole Intégrée, Enseignement Primaire Spécialisé Libre**

<https://ecoleintegree.be/>

Type 7, 聴覚障害のある子どもの幼小 (セカンダリーは身体障害も)

場所 : ウォリュウエー (Woluwe-Sint-Lambert)

MAIL : secretariat@ecoleintegree.be TEL : +32 (0)2 771 75 11

障害を持つ乳幼児のための託児・保育園 (ブリュッセルの南、Brabant Wallon 州)

■ **Les Lucioles** www.leslucioles.be

場所 : ランヌ (Lasne)

MAIL : directrice@leslucioles.be TEL : +32 (0) 2 633 2923

■ **Les Petites Tambours** <http://www.lespetitstambours.be>

場所 : ランヌ (Lasne)

MAIL : direction@lespetitstambours.be TEL : +32 (0) 2 385 49 70

IV. 役立つかもしれないコンタクト

日本語で頼れる専門家 : 臨床心理士、言語療法士など

■ 臨床心理士 川瀬まりさん <https://www.solvoa.com/>

MAIL : info@solvoa.com TEL : +32 485 83 83 72

■ 言語療法士 ユルバン五月さん

MAIL : tsutsu22@yahoo.fr TEL:+32 486 953611

■ 日本語による臨床心理士のネットワーク With Kids

<https://www.withkids-kaigai.com/>

英語で頼れる発達障害・学習障害の専門家グループ

■ ADHD, ASC & LD Belgium <http://www.adhd-edu.be/Web>

英語で頼れる注意欠損多動、学習障害などの専門家グループ

Dr. Ed. Joanne Norris

Mail: info@adhd-edu.be TEL+32 2 648.27.88 +32 0494.17.74.03

発達障害、学習障害、ダウン症などの確定診断を受けられる病院や医療専門組織

- ルーヴァンカトリック大学 St. Luc 病院 <https://www.saintluc.be/>

自閉専門家 Dr. Hayer, Dr. Van Ypersele, Dr. Wintgens, Dr Vanderbiest, Dr. Dembour

TEL: +32 (0) 2 764 20 30 (初診の相談電話は 9:30~10:30 に)

ダウン症 小児科内「ダウン症を多角的に取り扱う部門」

TEL: +32 (0)2 764 1111

- ブリュッセル自由大学ファビオラ王妃記念子ども病院 _

<https://www.huderf.be/en/index.asp>

pedo-psychiatre、午前と午後に電話受付、St. Luc よりもフレキシブル

予約+32 (0) 2 477 31 80 児童精神科ユニット +32 (0) 2 477 26 96

Dr. Soncarrieu (自閉)、Mme Carlier (臨床心理士)

Dr. Deconninck (ダウン症)

- ルーベカトリック大学蘭語校、Dyslexia などの学習障害専門部門

<http://ppw.kuleuven.be/home/english/research/pserg/>

Prof. dr. Pol Ghesquiere

L. Vanderkelenstraat 32 P0-box 3765, B-3000 Leuven (Belgium)

TEL: + 32 16 / 32 62 34

- 自閉症研究機関 SUSA (Service Universitaire Spécialisé pour Personne avec Autisme)

http://www.susa.be/component/option,com_frontpage/Itemid,98/

MAIL: susa@umh.ac.be TEL:+32 (0) 65/37.42.60

SUSA Bruxelles +32 (0)2/346 41 70

障害児関連の組織

- 仏語共同体の心身障害支援組織 AWIPPH <http://www.awiph.be/>

0800 160 61 (フリーダイヤル)

- 自閉症の親の会

APEPA <http://www2.ulg.ac.be/apepa/index.htm>

MAIL: apepa@skynet.be TEL:+32 (0) 81/74 43 50

- ダウン症の親の会

L'APEM-T21 TEL:+32 (0) 87/22 33 55

<http://www.servicesapem-t21.eu/>

<https://www.facebook.com/ServicesdelApemT21/>

Collectif T21

<https://collectift21.org/?fbclid=IwAR3yM7oW04lmxCEpVbARgg-4gdwKOFM-GRdp6IboTqxf1p5MM2cc8No7b7Q>

Trisomie 21 au Quotidien – Belgique

<https://www.facebook.com/groups/497954401133001/>

スポーツ・スタージュ関連情報

■ **JOSO** (Mme Sophie Pierart) <http://www.joso.be/fr/>

障害のある子どもにスポーツやアクティビティを。対象：6歳以上

MAIL: joso.adaptspportrip@gmail.com

TEL:+32(0)488 872508

■ **La Guise** (Psychomotricité リトミックのような感じ) <http://www.laguise.be/>

場所：オーデルゲム (Auderghem/Oudergem)

MAIL: laguise@skynet.be

TEL: 02 735 0459 (問い合わせ: 11h30-13h30)

*** バランス感覚や身体性を補助するPsychomotricienは多数います。一般医などに相談してみてください。**

■ **ヒポセラピー Les Rênes de la Vie**

<http://www.lesrenesdelavie.com/lesrenesdelavie/hippotherapie-poney-club.htm>

<http://www.lesrenesdelavie.com/activites/hippotherapie.htm>

場所：ユルプ (La Hulpe, Domaine du Chateau de la Hulpe)

Mail: info@lesrenesdelavie.com Tel: +32 (0)2 653 85 70

*** ヒポセラピーを提供する乗馬センターは他にもあります。**

SOS!!!! 障害児でも緊急時に預かってもらうことを相談できる施設

■ **Villa Indigo** <https://www.villaindigo.be/> (ブリュッセル)

■ **Enfants d'un Môme Père** <http://www.accueil-enfants-d-un-meme-pere.be/>

(ワロン地方 Huy の近郊)

~~~~

### 日本を出る前に、日本に帰る時に、相談できる窓口

■ 外務省と文科省の共管の公益財団法人 海外子女教育振興

[https://www.joes.or.jp/kokunai/kokunai\\_setsumeikai/detail/17](https://www.joes.or.jp/kokunai/kokunai_setsumeikai/detail/17)

■ 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 <https://www.nise.go.jp/nc/>

障害のある子どもの教育の充実・発展に寄与することを目的に、1961年に当時の文部省直轄の研究所として設立。海外に滞在・滞在予定のご家族の教育相談も。

2021年4月1日版 by MK

p. 16



## V. 体験記（障害児を帯同してベルギーに赴任された方々からのご寄稿）

### RT 君（渡白時 3 歳 8 か月）のお母さまより

息子は、日本で 2 歳 4 か月の時に、中度知的障害もある多動衝動性の強めな自閉スペクトラム障害と診断されました。少しずつでしたが、発語がありましたので日本人幼稚園以外の選択肢は考えていませんでした。日本語もままならない息子を、英語やフランス語などの学校に入れたら混乱して日本語さえ減ってしまうのではないかと不安だったからです。赴任前から日本人幼稚園へはコンタクトしておりましたが、渡白して面談してから、専門指導者がいないから受け入れはできないと言われてしまい、とてもショックだったことを覚えています。

当面は自宅での療育と公文と言語訓練でよいと考えていましたが、海外での慣れない生活に少しずつストレスが溜まり、赴任期間ずっと一日家で母と二人で過ごすのもよくないと考え、教育機関を探そうと思うようになりました。

しかし公立の養護学校に入るには、現地の指定医師による診断書が必要ということさえ、私は考えもしなかったのです。そして診断を受けるには長い時間かかり、たとえ診断書があったとしても養護学校の自閉クラスにも空きがなければ入学できないと知り愕然としました。初めて知る現状にとっても悩み、もっと事前から情報を集められていればと悔しい気持ちでした。ベルギーに滞在する間、息子は集団生活に一度も入れることができないかもしれないという疎外感でいっぱいになりました。

親の私たちは英語も少ししか理解せず、ましてやフランス語などできませんでしたので、学校探しでも、サイトにたどり着くことも容易くはなく、翻訳サイトを使っても、どこに知りたい記載があるかすら分からないような状態でした。ベルギーでの知り合いや友人などをお願いして様々な情報がもらえるようになり、渡白から三か月がたってやっと、現地の幼稚園の見学に行くことができるようになったのでした。

障害をもつ子の親の精神的な負担は想像以上です。赴任前あるいは赴任直後に、相談機関や当地での学校情報などにたどりつけたら、どれだけ違っていただろうと思います。今後、駐在されるご家族のためにも是非日本語でのサポート体制を整えて下さることを願っています。

### KY 君（男児、渡白時 4 歳）のお父様から

ベルギーに赴任する際、子供の学校が家族にとっての最大の心配でした。息子は ADHD+ 自閉症スペクトラムもあります。精神的に不安定でしたので、ベルギーの学校に受け入れられるのか不明でした。

妻と話し合い、私がひとまず先に赴任し、妻と息子が来るのは学校の見通しが立ってからにしよう決めました。仕事の関係で、日本人ばかりでなく、ベルギー人や外国人に接する機会が多かったので、我が家が抱える不安について率直に話して意見を求めました。こちらが率直だと相手も真摯に受け止めてくれます。信じられないくらい多くの方が、何かしらの障害を抱えた子供を育てたり、そういう友人・親戚を間近に見ていたりして、アドバイスをくれました。

学校を探すにあたっては、少人数で子供の個性を尊重する学校であることを重視し、画一的で規律重視のところは避けるよう心掛けました。モンテソーリ校に入れることにし、学校側とも話をし（入学を保証してくれたわけではありませんでしたが）、妻と息子が渡白しました。自閉症スペクトラム+ADHDの子を抱えて教育に苦労したベルギー人の母親から、そこに転校したことで子供に良い転機が訪れたと伺ったからです。私がベルギーに来て半年後のことでした。

学校は、体験入学をさせて子供の様子を観察したうえで、入学を認めてくれました。ただし、この学校を選んだことは、良いことと残念なことが交じり合った経験となりました。幼稚園は初日から楽しみ、笑顔で帰宅する充実した毎日でした。ところが、小学校にあがると学校を嫌がりました。息子に理由を尋ねると、どうやらクラスに馴染めない上、ときどき先生の見えない所で他の子に叩かれ、逆に先生からは息子が他の子に乱暴しているという誤解を受けていると、ぽつぽつと話しはじめました。子供が適応できずに学校嫌いになると、二次障害になってダメージが拡大します。ゆえに、様子を見ながら、学校には行ったり行かなかったりの毎日でした。

先生は我々と一緒に解決策を探そうと努力して、何度も話し合い、いろいろ試してくれましたが、結局、次の転勤までの2年近くの間、息子は最後まで学校になじみ切れず、学校で話される英語もフランス語もほとんど上達しませんでした。

その後、アメリカに転勤となりました。一生懸命調べた結果、ADHDやLDの子供を集中的に教育することで実績を上げている学校を見つけ、入学させました。大変に優れた学校で、息子は自信を取り戻し、成長しました。

我々の経験から思うのは、「孟母三遷」という諺です。結局、その子にとって居心地がよく、笑顔でいられるところが一番良いところなのです。ベルギーは寛容で親切でとても良い国ですが、もし子供にとって居心地がよくないなら、その子を連れて日本に帰るという発想も必要でしょう。ポイントは、親の柔軟性だと思います。日本では、障害福祉課、児童精神科医を通じて優れた障害児福祉制度に助けられました。特別支援教育に関する専門誌などから熱意ある先生や学校を調べることもできます

#### **KYちゃん(女兒 渡白時4歳)のお母さまから**

日本では共働きだったこともあり、ダウン症の娘は、市立の保育園に通っていました。会社から渡白の内々示が出された時（渡白半年前）、まず娘の受け入れ先があるのかという問題に直面しました。すぐにインターネットで可能な限り情報収集をし、日本人幼稚園とISB（特別支援学級がある）に、日本からメールで問い合わせをしました。

当時の娘は、言葉に遅れはありましたが、食事、着替え、トイレなど同年代の子供とほぼ同等にできたので、通っていた保育園でも、加配なしで過ごしていました。帰国後のことを考えると、日本語での教育をと思い、日本人幼稚園が第1候補でした。空きさえあれば、入れるものだと思っていましたが、人手不足を理由に発達に遅れがある子の受け入れが難しいとやんわり断られました。

ISBは、メールで問い合わせ、ウェイティングリストに載せてもらうことが出来ました。渡白後、すぐに見学に行きました。学費など負担は少なくありませんが、整った設備に、手厚い特別支援環境と、親子で大変気に入りましたが、残念ながら新学期までに空きが出

そうにもなく、断念しました。

自分達だけでは、限界を感じ、当時便利帳に載っていた方に相談しました。オーデルゲムの **Schaller** という養護学校の幼稚部を紹介して頂き、すぐに娘を連れて見学に行きました。当時の校長先生が親日的な方であったことや、偶然にも空きがあったことなど、幸運が重なり、入園することが出来ました。フランス語教育でしたが、英語を話せる先生もいた為、助かりました。少人数制でのクラス割や、マンツーマンでの療育（言語療法、作業療法）を園内で療育時間内に受けることが出来、とても充実した園生活を送ることが出来ました。入園の際に、日本から持って行った、正式な発達検査の結果をフランス語に翻訳してもらったものを園に提出したことで、新学期からスムーズ入園出来ました。

私達の経験から、障害児を持つ駐在家族向けの資料、手引きがあれば、とても助かると思えました。渡白前にそれらが取り寄せられると、尚良いと思います。日本の常識が、ベルギーの常識ではないこと、現地での園探しや、その後のやり取りは時間がかかることをふまえ、渡白前から情報収集や準備を始めることをお勧めします。

### IM 君（男児、渡白時 2 歳 3 か月）のお母さまから

我が家がベルギーに赴任したのは、20 年前でした。2 歳になっても発語がなかったことに不安を感じていたので、赴任前に児童精神科や教育センターに相談をしましたが、2 歳ということもあり診断名はつきませんでした。一時帰国を利用して再度児童精神科を受診し、知的障害を伴う自閉症と診断されました。

その頃の私は、障害受容もできず、特性に合わせた教育の仕方もわからず途方に暮れていました。主治医からは、日本語の教育環境の方が適切という理由で、日本人幼稚園に相談に行くように勧められましたが、相談に行くと、補助教員をつけられないという理由で断られました。入園を断られた私は、どうしたら通常発達の児童と同じ環境で生活できるのか、そのことばかり考えていました。不安のあまり相談できる場所はどこにでも行きました。今思えば、本人が安心できるように生活リズムを整え、落ち着いた環境で過ごすことも選択肢の一つだったように思います。年齢並みのことができない不安と孤独、そして何度教えてもできるようにならない苛立ちに押しつぶされそうになりました。

その後二度ほど、現地の普通幼稚園を不適応といわれて変えざるをえず、ようやく確定診断がついたことで、グランプラス近くの養護学校 **Chanterelle** の幼稚園に入れました。フランス語でしたが、**TEACCH** プログラムや **PECS**（カードを使って意思表示をする練習）、乗馬セラピーやスイミングのプログラムにも参加させてもらいました。

ベルギーの養護教育はとても配慮が行き届いていて、その恩恵を受けられたことは幸運でしたが、幼児期に、母語以外の教育環境を障害がある子どもに強いること自体、間違っていたと思います。かといって、障害児がいるために、海外赴任をしないという選択肢も考えられませんでした。子育てというものは、誰もがその立場になって初めて、目の前の課題が認識できるものです。障害児の子育ても、あの時の私たちには未知のものでした。母親もまだ障害の告知を受けた不安定な状態だからこそ、本音を言えば、日本人幼稚園で、子育て支援（願わくば、障害児の療育）を提供してもらえれば、あんなにも悩んだり、子どもをあちこち連れ回さなくてよかったのではないかと思います。もちろん、日本人幼稚園や日本人学校の善意に委ねるだけではなく、海外にいる日本人子弟のことなので、文部

科学省や厚生労働省、企業等が人材や費用をつけて支援してほしいです。幼児期に児童と母親を支援する仕組みは、駐在する国のサービスを利用するべきだという考えもあるとは思いますが。ただ、日本のサポートも選択できたならどれだけ救われたかと思います。これからは、高額な予算でなくても zoom など、先生方や保護者の方々が悩みや指導法の相談でき、障害のある児童の成長を一緒に見守れる環境が提供できると思います。息子には、ベルギーという社会に適応することと、帰国後、日本の社会に適応する二度の負担を強いてしまいました。早期発見、早期療育は、その後の発達にも影響を及ぼします。また障害がある子どもを育てる母親の精神的負担も相当なものです。どうか、ベルギーの福祉制度に甘んじるばかりではなく、外国に住む障害のある日本人子弟の教育・療育の問題に取り組んでいただきたいと切に願います。

### HTちゃん（女兒、渡白時3歳）のお母さまより

我が家の長女は重度の脳性マヒです。健常児で生まれましたが、1才の時に風邪のウィルスが脳に入り、脳の大部分が壊死してしまいました。その結果、歩けない、喋れない、視線も合わせられない、食事だけは、スプーンで口に入れてあげれば、自分でモグモグできる状態です。私たち家族がベルギーに在住したのは1995年から2002年の6年半、娘が3才から10才まででした。今から25年も前のことです。ベルギーに着いて、まず始めたのは、長女の学校探しでした。何の手がかりもなく、暗中模索でした。私のフランス語習得は必須と考え、習い始めたフランス語の家庭教師の先生が、とても親切で日本語も堪能だったので助けてもらい、いくつかの学校の見学に行きましたが、全て断られました。その間、家で訪問施術してもらうことになったPT（理学療法士）の方に「CREB」（重度心身障害児療育施設）を紹介してもらいました。CREBは娘の障害に合ったとてもいい施設でした。ただ、居住5年未満の外国人は、当時で1日約15,000円と負担が大きかったので、特別に週3日だけにしてもらい、他の日はPTに自宅に来てもらっていました。在住5年が過ぎたその日から、ほぼ無償となったので毎日通えました。外国人として赴任するのですからある程度の負担も覚悟して、外国語習得や現地の方との人間関係作りにも努力して、子供さんに一番良い環境を見つけてください。

~~~~~

最後にお断りとお願い

ボランティア精神をベースにまとめたので、基本的にこれを商業利用はしないでくださるようお願いいたします。日本人コミュニティーの共有知的財産として必要とする方に役立てていただけることを祈ります。

なるべく年に一度は更新（変更、追加、削除、備考、体験記追加など）するようにしますが、アップデートできていない情報もあるということをご理解の上、参考にしていただければ幸いです。このバージョンは、**2021年4月1日更新版 by MK**です。他の方が更新して公開してくださる場合には、同じようにして、更新日時とイニシャルを付記してください。